

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 798 事業名 自殺対策緊急強化事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		保健所費	
	大事業		保健所事業	
事項		自殺対策緊急強化事業		

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	1	地域福祉と健康づくりの推進
施策	5	保健医療対策の推進
取組	3	こころの健康づくりの推進

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	平成22年	～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	保健対策課	坂東貞次	433-226
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実	○	道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か	事業内容				
	和歌山市における自殺者数は、年間80人から100人前後で推移しているため、うつ病等の早期発見や、こころの健康相談を保健所で行っていることの周知を図る。	1. 特にうつ病等の早期発見・早期治療を目的とした精神科医による夜間相談（予約制）の実施。 2. 自殺予防に関する知識の普及を図るための研修会、ゲートキーパー育成のための研修会等の実施。 3. 自殺の現状や相談窓口の周知を目的に、様々な普及啓発の実施。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
			医師による夜間相談を実施することにより、うつ病等の早期発見早期治療ができた。自殺予防に関わる職員を対象に自殺対策研修をすることにより早期対応の中心的役割を果たす人材を養成できた。また、啓発普及活動を行うことにより市民一人ひとりの気づきと見守りを促し自殺に対する理解が得られた。	医師による夜間相談を実施することにより、うつ病等の早期発見早期治療ができた。自殺予防に関わる職員を対象に自殺対策研修をすることにより早期対応の中心的役割を果たす人材を養成できた。また、普及啓発活動を行うことにより市民一人ひとりの気づきと見守りを促し自殺に対する理解が得られた。		

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費			6,570	5,275	5,251	4,398	7,181		7,181	
伸び率 (%)	-	-								
人件費	常勤職員		6,843	6,843	11,476	11,476	11,476		11,476	
	非常勤職員				1,312	1,312	1,312		1,312	
小計			6,843	6,843	12,788	12,788	12,788		12,788	
国庫支出金										
県支出金			6,570	5,275	5,251	4,396	7,168		7,168	
市債										
その他							13			
一般財源(税等)			0	0	2	0	0		13	
所要人数	常勤職員		0.91	0.91	1.52	1.52	1.52		1.52	
	非常勤職員				0.52	0.52	0.52		0.52	

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
活動指標	夜間相談開催回数					年度目標値	12	12	12	12	
						実績値	12				
	単位	回	全体目標値	12	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%		
							実績値	4	4	4	4
成果指標	夜間相談者数					年度目標値	36	36	36	36	
						実績値	10	16			
	単位	人	全体目標値	36	全体目標達成度	44.0%	年度別達成度	27.8%	44.0%		
							実績値	150	150	150	150
研修実施・参加人数					年度目標値	150	150	150	150		
					実績値	133	170				
単位	人	全体目標値	150	全体目標達成度	103.0%	年度別達成度	88.7%	103.0%			
						実績値					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) B 1
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	和歌山市では年間80人から100人前後の方々が自殺で亡くなっているため、開庁時間における相談対応はもとより、精神科医師によるうつ病に関する夜間相談の実施、自殺防止に関する啓発活動に取り組む必要がある。また、今後事業の拡充として、一般診療科医と精神科医の連携を構築する必要があるため。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	平成22年度、23年度に実施してきた事業に加え、平成24年度において、一般診療科医から精神科医へつなぐ医療連携体制構築に取り組みます。 医療連携体制は、一般診療科医と精神科医が連携し、うつ病患者の早期発見・早期治療を目的としています。 一般診療科医は、特に40、50、60歳代の不眠等が継続している方や、倦怠感等のある方をうつ病スクリーニングし精神科医に紹介します。精神科医は紹介された患者を早い段階で診察し、一般診療科で治療可能なうつ病であれば精神科医がアドバイスし、一般診療科で治療困難なうつ病であれば精神科での治療を実施して、一般診療科へ適宜報告するというシステムです。